桃山学院大学 全学FD推進委員会
FD NEWS
Faculty Development
21号
2023.12

2023年度全学FD研修

2023年度春学期に2件の研修を実施しましたので、ご報告いたします。

生成系AIに関する研修

ChatGPT等の生成系AIへの関心の高まりを受けて、全学FD推進委員会においても生成系AIをテーマにオンデマンド形式で研修を行いました。生成系AIとはどんなものなのか、どのようなことが出来るもしくは苦手なのかなど、初歩的な内容を紹介いたしました。
生成系AIの利用については、これからも利用される場面が増加していくことが予想され、その付き合い方を継続的に考えていく必要があると考えられます。今回の研修がそのきっかけとなれば幸いです。

実施期間：2023年 7月13日から 9月29日まで
対　象　：教職員、大学院生（博士後期課程）
実施形態：オンデマンド形式
概　要　：基本的なChatGPTの使い方の紹介動画、実践例の募集、参考動画の紹介 等

参　考　：動画内で紹介した参考動画
「教員向け ChatGPT 講座 ～基礎から応用まで～」
東京大学大学院工学系研究科　吉田 塁 准教授
https://edulab.t.u-tokyo.ac.jp/2023-05-13-report-event-chatgpt-course/

＊研修内で生成系AI利用の実践例等を募りました。
次ページで寄せられたご意見を紹介いたします。

次ページ

【参考】生成系AIに関する基本方針
本学では、2023年6月に生成系AIに関する基本方針を公表いたしました。

桃山学院大学ChatGPT等の生成系AIに関する基本方針について
https://www.andrew.ac.jp/newstopics3/2023/h1026a00000losfj.html

個人情報保護の基礎

授業内で取り扱う個人情報だけでなく、学生面談等の実施により取り扱う個人情報が増加傾向にあることから、個人情報保護の基礎を確認するために実施いたしました。

実施期間：2023年 6月12日から 9月30日まで
対　象　：専任教員
実施方法：e-learning
概　要　：個人情報とは、個人情報取得・利用の際の注意、漏洩の注意 等

＊授業での生成系AI利用実践例等＊

研修内で実践例等を募りました。寄せられたご意見を紹介いたします。（投稿順）

私自身、ChatGPTが登場したとき、非常に危機感と不安を覚えました。そのため、文字通り片っ端から調べてみました。

結論として、学生が生成AIを利用することを阻止するのは無理であると判断しました。そして、それならば、安易に生成AIに頼るのではなく、生成AIの特性を知ったうえで有効に使うように指導するべきであると考えました。

実際の授業では、2年次の基礎ゼミにおいて、「大学生は生成AIをどのように研究に利用すべきか」というテーマで調査させ、その調査にもとづいて自論を立てさせる課題を設定しました。

1年生に対しては、時間的な制約から、大学HPに掲載された「ChatGPT等の生成系AIに関する基本方針について」を確認させるにとどめました。

3・4年次ゼミでは、どのような質問をChatGPTにすると有益な回答を得られたか、何人かの研究テーマに即した実例を示しました。

私自身がChatGPTの有用性を強く感じるのは、抽象的な概念を具体的に説明してくれる点です。たとえば、直近での例では、What is one's homeland? という質問に対して、非常に意味深い回答が得られました。

いっぽう、より専門的で具体的な質問に対しては、誤りだらけの回答がされるようです。

以上の経験から、学生には、実際に生成AIを使わせたうえで、どのように利用するのが自分にとって役に立つのか、自分で理解させるのが一番だと思います。

しかし、現実問題として、生成AIの特性（とくにデメリット）を知ってはいても、楽をするために安易に生成AIに頼ろうとする学生は少なくないでしょう。

そのため、複数の条件を設定することで生成AIに問いかけにくいようにする、先にChatGPTに回答させたものを学生に示すことで牽制するなど、何らかの工夫が必要です。

（国際教養学部　和栗教授）

授業で生成系AIを学生が使用してくることを前提として、AIによる対策などは未だしたことがありません。今のところ、よい対策は思い浮かびませんが、それは現在も同様に盗用・盗作などの不正行為に、完ぺきな対応ができないことと変わりません。しかし、今後も教員個人だけでなく、FD研修会でも継続的に取り上げるべき課題であるといえます。

大学において社会学の授業で取りあげる場合には、まず、AIがすでに私たちの社会にあり、生活をどのように便利にしてくれているのか、どのような問題や課題があるのかを、具体的に認識する必要があります。SNSやショッピングサイト、銀行のアプリなど、私たちが無意識で、気づいていないところで、すでにAIは身近に活用されているからです。

どこからどこまで、どのように活用または規制するのかというような点を、社会制度の視点から、教育社会学的な角度から…というように、社会学の授業では社会学分野別に、課題を取り上げ議論することができます。国や地域、経済発展の段階によっても、それぞれの国や経済連合・共同体により、活用や規制の状況がどのように異なるのか…というように、国際・地域比較社会学のテーマにもなりえます。

生成系AIの使用が加速化することにより、今後なくなる職業・生まれる新たな仕事が予測されます。ライフコース社会学の視点で、キャリアと格差に注目すると、今後ジェンダー格差や障がい者－非障がい者間格差の状況などが、思いがけない方向に変化してくる可能性は大いにあり得るでしょう。

このように、生成系AIの利点と問題点を学生に認識してもらい、大学を「自らの力で情報収集・編集し、新しい知識をうみだす力を身につける場、と意識してもらう必要性があります。　（社会学部　篠原准教授）

ゼミ生に対して「ライフシフト」の感想文提出という課題を出した時、1件AIが書いた感想文がありました。
その特徴は①非常に完成された文章　②誰にでもあてはまる一般論的内容の2点でした。美文にも関わらず、具体例もなく、少しも心に残る記述がなく、他と比べ違いは明らかでした。

これを踏まえ同様の課題を出すとき、
「自分にしか書けない内容を、自分の言葉で書くこと」と追記しています。　（経営学部　藤田教授）

先にAIに生成させた一般的な説明文を示し、講義内容と食い違う点について指摘、説明させる。リサイクルの意義についてAIに書かせると、資源の節約やエネルギーの節約といったことがリストアップされるが、私の授業では最終処分場の延命という点を強調しているので内容が食い違う。こうした点をきちんと講義を聞いて理解しているか確認するのはありのように思う（実際にはまだやっていないが）。

以前に期末試験に出していた単純な穴埋め問題をChatGPTに回答させたところ、20問中16問正解だったので事態は深刻。大人数講義では自動採点しやすい問題にすることが多いが、非対面でAIを使われると考えたら作問はきわめて困難である。

（社会学部　巖 教授）

2023年度全学FD推進委員会メンバー紹介

【委員長】巖 圭介（副学長）
【委　員】金江 亮（経済学部）、篠原 千佳（社会学部）、藤田 智子（経営学部）、森田 良成（国際教養学部・春）、村中 淑子（国際教養学部・秋）、松村 昌廣（法学部）、玄野 博行（ビジネスデザイン学部）、櫻井 雄大（共通教育機構選出、経済学部）、森田 政恒（教務課 課長）
【事務局】学長室

発行日　2023年12月 5日
発　行　桃山学院大学 全学ＦＤ推進委員会 事務局
メールアドレス zfd-momo@andrew.ac.jp